

# 公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成29年12月22日

施設名	牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-------	------	----------------

## 1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	平成28年4月1日～平成33年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務</li> <li>・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務</li> <li>・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務</li> <li>・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務</li> </ul> <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p>〈植物園面積〉 約18.2ha(うち6haを利用)、駐車場(普通車など195台、バスなど8台)          〈主要施設〉 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど          〈開園時間〉 午前9時～午後5時 〈休園日〉 12月27日～1月1日          〈主な料金〉 入園料／一般720円(高校生以下無料)、団体620円(20名以上)、年間入園券2,880円、高知県長寿手帳保持者等は無料          施設利用料(1時間当たり)／映像ホール1,440～1,850円、アトリエ実習室510～620円など          撮影料／業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,840円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,700円</p>		
職員体制	常勤職員: 22人 契約職員: 25人 合計: 47人		

「職員数は、平成29年4月1日現在」

## 2 収支の状況

単位:千円

		27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(予算)
収入	県支出金	351,106	370,674	371,825
	使用料・手数料	56,458	52,289	56,011
	その他	11,544	18,063	5,446
	収入計 (a)	419,108	441,026	433,282
支出	事業費	70,570	48,802	47,371
	管理運営費	170,078	197,779	187,758
	人件費	178,391	191,956	198,153
	その他	69	2,489	0
	支出計 (b)	419,108	441,026	433,282

### 3 利用状況

	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	143,860	146,354	145,000
②利用者意見等の反映	<p>○ 利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントや教室開催時にはアンケートを実施のうえ、要望を把握し、次回以降の企画に活かしている。</li> <li>・苦情については、適宜迅速かつ丁寧に対応し、経緯を含め職員間で対応に関する共通認識を持つようにしている。</li> </ul>		
③その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内14例目、関西・中四国初となる「ショクダイオオコンニャク」がH28年7月に開花し、1ヶ月で12,414人の方に来園いただいた。例年7月は約5,000～6,000人の来園者のため、入園者増加に大きく効果が発揮された。</li> <li>・研究型植物園として、ミャンマーでの調査研究においては、ナマタン国立公園植物目録出版を目指しており、これまで国内外の研究者の協力も得て同定数13,000点に達し、植物分類学に大きく貢献した。</li> <li>・全体の入園者数は前年比約1.7%増の146,354人で、目標の14万人を超えたが、利用料金収入は前年比約7.4%減の52,289千円となった。</li> </ul>		

### 4 平成28年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。</li> </ul>
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベビーカー、車イスに加えてシルバーカーの貸出等、来園者にとって利用しやすい管理運営に努めている。</li> <li>・外部で行われる接遇セミナー等に参加するほか、財団内部でも情報共有や勉強会を実施している。</li> <li>・園内のショップやレストランと定期的に意見、情報交換を実施しており、グッズやメニューの開発に協力し、来園者へのサービス向上に努めている。</li> </ul>
③事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園地、植物管理においては、ノジギクやヤマコンニャクなどの植物を新たに導入。また、エドヒガンなどにエアースコップによる土壌改良を実施している。</li> <li>・基礎研究分野では、研究活動の成果を6つの原著論文として公表するとともに、学会やシンポジウムにおいても発表した。標本数は1年間で10,039点増加し、総数282,403点と充実を図っている。</li> <li>・薬用植物研究では、引き続きホソバオケラ、シャクヤクの栽培試験を行うなど、中山間地域における産業振興に向けた研究調査を実施している。また、民間企業や大学等と、薬用植物の栽培や牧野博士ゆかりの植物からの機能性商品の開発を目指す共同研究を実施している。</li> <li>・「ブラジルの植物展」、「牧野富太郎の植物図」等のイベントにおいては、県立美術館と連携した企画展を実施し、来園者に深く理解いただくことにより、満足度の向上に努めている。</li> </ul>
④収支の状況	<p>年間入園者数は、無料入園者(子ども(高校生以下)、県内高齢者、イベントで配布した無料入園券で来園した方等)数の伸びにより前年度から約2,500人増加し、146,354人となったが、有料入園者数が減少したため、利用料金収入は前年度から約4,150千円減の52,289千円となった。</p>
総合評価	<p><b>A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロモーション戦略の策定に向けた取組、ボランティアの活動充実のためのセミナー開催など、昨年度の指摘事項は改善されている。</li> <li>・県外からの誘客も大切であるため、「重要な観光施設」としての意識をもっと高め、県外への情報発信に取り組んで欲しい。</li> <li>・収入確保のため、運営委託しているレストラン、ショップから売上の一部を入れてもらうルールづくりなど、仕組みの検討が必要である。</li> <li>・入園者や利用料金収入の増加、プロモーション、その他多方面において、更に良くしていくために、他団体や民間との連携を更に取り入れていくよう検討する必要がある。</li> <li>・植物園はアカデミックであるべきで、スキルの継承はしっかり続けて欲しい。</li> </ul>

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
  - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
  - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
  - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの